サービスラーニングで学んだ事

社会福祉学部社会福祉学科２年　柴田　雅也
活動先：親子の広場あんだんて
ゼミ：野尻　紀恵　先生

私は、このサービスラーニングを通して学童保育における指導員のあるべき姿や子供の視点に立って考えるという事が出来たと考えている。またサービスラーニングを通して自分が成長したことや、気づいたことについてもこれから随時述べていきたい。

まずはじめに、親子の広場あんだんてについて述べる。あんだんては、知多郡東浦町に存在し、普段あんだんてに来ていただく利用者の対象年齢としては 0 歳から 3 歳までの未就園児とその親子を対象にしている。「あんだんて」とはイタリア語でゆっくりと歩くという意味の音楽用語で、「ゆっくりと地域の中で安心して子育てをしよう」という意味が込められている。また親子の広場あんだんては、夏休みの間だけ小学生が対象となり、今年は 1 年生～5 年生の 27 人が参加していた。

私はサービスラーニングのメンバー3 人で活動することになった。あんだんてにサービスラーニングの打ち合わせを兼ねた事前訪問に行ったところ、施設の方々から去年のサービスラーニングに行った先輩が進めていったプログラムを見せていただいて、正直自分がこのプログラムを進行していくのは無理なのではないかと感じた。

あんだんての 1 日の大まかなプログラムとしては、まず私たち学生が 9 時ごろ施設に到着して 1 日の流れを整理したり、施設内の準備や掃除を行う。10 時頃に子どもたちが元気一杯に登校してくるので私たちは玄関で子どもたちとあいさつをしたり軽いコミュニケーションを図っていく。私個人的には、朝元気がなく足取りが重い子には声掛けえをするように心がけていた。子どもたちは、朝あんだんてに来ると、まずはじめにに夏休みの宿題や各家庭で出された課題等に取り組んでいく。私たちは宿題を取り組む様子などを横で見守るが、子ども達から質問や疑問点を聞かれるまでは手助けは行わない。中には宿題に取り組む集中力が長続きせず、途中から遊びを始めてしまう子もいる。私たちはそのような子どもに寄り添い、6 日間を通して学習面をサポートできたのではないかと感じている。また、サービスラーニングで 6 日間行うプログラムの中に、必ず 1 日一つは学生企画として職員さん、学生、子どもが一体となって参加できるような企画を立案、実行しなければいけないのである。

私はその中でも 2 日目の宝探しと、4 日目のシャボン玉遊びの企画を担当した。2 日目はあんだんての近くの神社の裏山にて宝さがしゲームを行った。画用紙に番号札を書いてそれをあらかじめ指定されたエリアに隠し、見つけた番号札と景品のお菓子を交換するというものだ。当初の予定では、子どもたちが宝をみつけるまでに時間を要するというシミレーションを練っていたが、子どもたちは毎年同じ場所で宝探しを行っているため、宝がありそうな場所が容易に想像できるとあんだんての方から助言をいただいた。その結果、学

生メンバー３人で宝を隠したのだが、私たちは低学年の子ども達でも宝を見つけやすいよう、低学年の子の視点から見やすいところに宝を隠したり、低学年と高学年をペアにして宝をさがすルールを設けたり、私たちなりに工夫を凝らすことが出来たのではないかと思う。また宝探しで子どもたちの見つけるペースがとても速かったので、企画の尺が余ってしまった事は想定外であった。自分の反省点として、あんだんてから近くの神社まで移動するときに、一部の男の子が隊列からはみ出してしまったり、隊列から抜けてしまう事があったので、子どもたちの中でも学年や歩くペース、体力等が人それぞれ違う事を理解し、もっと迅速に対処せねばならなかったと感じた。また真夏の酷暑の中での野外活動であったため、随時水分補給の喚起も積極的に促していけたらなおよかったと思う。

４日目は地域からのボランティアとして、将棋のおじさんたちがあんだんてに訪れてくださった。この将棋おじさんを目当てに、毎年参加してくれる子もいるそうなので、子どもたちは熱心に一手一手熟考している様子だった。僕はこうして地域の中から子どもたちに将棋を教えてくださる人が居ることはとても良いことだと思う。現にこの将棋おじさんとの交流がきっかけで、将棋にのめり込んだ子もいると、あんだんての方から聞いた。地域の方々と子どもたちが将棋を指しあえる環境というのは、地域全体を見てもまだまだ少ない。よって、これからももっと多くの子どもたちに将棋を通して交流を深めていったら良いと私は考える。

私があんだんての子どもたちを見て気が付いたことは、皆一つ好きな事や好きな遊びがあればそこに全力で取り組み、集中する力を持っているとということだ。将棋が好きな子は朝から晩まで将棋を指し、野球が好きな子は一日中白球を追いかけていたりと、皆それぞれ自分に合った遊びを考え、見つけ、それを他の子たちと上手に遊んでいるという印象を受けた。

一方で私が気になった点がひとつだけある。あんだんての一日目には来てくれていた子が、一日目に友達とケンカしてしまい、それ以降はあんだんてに来てくれなかったということだ。活動初日という事もあり子供たちのケンカの処理が上手くできていなかった事も一つの要因ではないかと考えたからである。あんだんての一日の流れにおいてケンカの無い日などはない。また、あんだんての中には高学年でケンカの仲裁役になってくれる子も少なからずいる。だが子どもたちの間にはいり、上手にケンカの仲裁をしていくのは、大人だと思う。どのようにすればよかったのか、今でも考えている。

私は、このあんだんての活動を通して他では得られないとても貴重な経験が得られたと感じる。それは毎日子どもたちの前に立って企画のプレゼンや説明をするというプレゼン能力が養われたということも、一つの貴重な体験であると自分では考えている。また企画構成の面でメンバーと意見交換したり、打ち合わせをしてプラン通りに企画を進めていく力も身に付き、プラン通りに企画が進まなかった時の軌道修正能力も身に着けることが出来たと感じている。こういった能力はこれからの大学での学び、しいては社会に出ても当然必要になる能力であると私は考える。